

令和7年度第1回伊賀・山城南・東大和定住自立圏推進協議会 議事概要

開催日時	令和7年8月18日(月)11:00～12:00
開催場所	伊賀市役所5階 501 会議室
出席者	【伊賀市】 稲森 稔尚（市長） 【笠置町】 山本 篤志(町長) 【南山城村】 平沼 和彦(村長) 【山添村】 野村 栄作(村長) 【名張市】 北川 裕之(市長) 【事務局】 伊賀市未来政策部 風隼部長、中西次長(兼未来政策課長)、伊賀市未来政策課 森林係長、藤山 笠置町希望のまち推進課 田中課長 南山城村企画政策課 岸田課長、橋本課長補佐 山添村総合政策課 棕本課長、井上課長補佐 名張市なばりの未来創造部 山下部長、名張市総合企画政策室 伊奈室長、総合 企画政策室 西口係長
会議概要	1. 開会 ただいまから、令和7年度第1回伊賀・山城南・東大和定住自立圏推進協議会を始めさせていただきます。 ★会議及び議事録公開の確認 本日の会議は、会議を公開し会議の傍聴を認めている。本日の会議を傍聴される方、報道関係者の撮影等について、ご了解、ご理解をお願いします。また、会議録についても公開させていただきます。
	2. あいさつ — 稲森会長 あいさつ —
	3. 議事 (1)副会長の選任について (会長) 当協議会の副会長については推進協議会規約第7条の規定により、「副会長は毎年度最初の会議で会長が指名する委員をもって充てる」ということになっているので、本年度は「北川名張市長」に副会長に就任をいただきたいと思うが、よろ

しいか。

— 異議なし —

(会長)

では、一年間よろしくお願いいたします。

(2)共生ビジョン変更案について

— 事務局【資料1】パブコメ募集結果・変更案への反映結果

【資料2】共生ビジョン変更案

参考資料2 <第2期>施策 KPI 一覧 により説明 —

(会長)

ただ今の説明について、何かご質問、ご意見等があればお願いしたい。

— 意見なし —

それでは、この推進協議会として、この第2期伊賀・山城南・東大和定住自立圏共生ビジョン変更について、ご承認いただけるということでよろしいか。

(全委員)

はい。

(会長)

ありがとうございました。それでは資料にある、案を削除いただきたい。今後は、この変更後の共生ビジョンに基づいて取り組みを進めていく。

(3)R6年度の取組及び R7年度の取組について

— 事務局【資料3】R6年度取組及び R7年度の取組 により説明 —

(委員)

教育の面でのご報告。山添村として、山辺高等学校山添分校の募集について、令和7年4月以降実施しないと決定した。伊賀市、名張市から多くの生徒が通学していたが、断腸の思いで決定したので、ご理解の程よろしくお願いいたします。

令和6年度の取組で、山添村で開催した「第2回山添やんばい祭り2024」は、第3回目もあるので、是非とも出展いただければありがたい。また、令和7年度は「伊賀上野NINJAフェスタ in 上野恩賜公園」の計画はあるか。令和6年度は、南山城村、名張市と一緒に出展させていただいた。今年度もあるならば、具体的に記入していただければと思う。

人材育成について、職員の研修については今までから実施いただいているが、将来的には、圏域全体での人材交流について、検討していただきたい。

(副会長)

ここ数年の様子を見ていると、人口減少が加速し、なかなか1自治体だけでは、支えきれない分野が増えてきていると感じる。技術者もそうだし、上下水道の維持管理もそうである。もちろん、この圏域で人口を増やしていく、活性化していくということが第一義にあるので、その観点は持ちながらも、一方で人口減少は避けられないので、それを見据えた広域的な取り組みについて、議論を進められたらと考えている。各部会もあってくれるということだが、時間を設けて、首長同士で議論させていただける機会があるとありがたい。

(委員)

連携市町村それぞれの特徴、特色があることを知って欲しいという中で、やはりこの定住自立圏というのを生かしていくには、人材交流が一番、職員が肌で感じてくれることが大きいのかなと思う。もちろんねらいがあって、目的があってやることだと思うが、議論させていただければと思う。

(委員)

人材交流は、前からお話をさせていただいているので、やっていきたい思いはあるが、人口が減っている割に年々事業が増え、仕事量が増え、もう本当にマンパワーが足りないという現状。市町村で隣同士なので、例えば課税調査等の業務を分業し合う等できたらどうかと思っている。

村タクも、今度、笠置町と一緒にされるということで、取り組みが広がっていけばよいし、そういったところで集約できればよいと思う。

(副会長)

やはり人材交流は、若い世代の人で交流してもらおうとありがたいと思う。20代30代の若い世代が、自分たちが、将来10年20年先、どんな形で、この自治体を背負っていかなきゃいけないのかと、我々の感覚とかなり見えているものが違うと思う。そういう世代でいろいろ先を見ながら、意見交換してもらったりするのはいいのかなと思う。

(会長)

先ほど山添村長から教育に関する話もあって、山添分校に伊賀地域から8割ぐらいの生徒が通っていたということで、多様な学びの受け皿になっていただいていた学校が無くなってしまうのは寂しいという思いがある。三重県でも、今ちょう

ど県立高校の統廃合の計画が進んでいて、2040 年には伊賀市内に1校、名張市内に 1 校というような方向性も出されている。本当にこの地域や圏域全体で、高等学校による学びのあり方や農業の人材をどうしていくかとか、日本語教育をどうしていくかとか、一緒に考えていかなければいけないと思う。

それから、人材交流に関して、どこまでできるかとか、制度的なことは詳しくはないが、行政機関の共同設置ということに少し関心を持っている。監査事務局や議会事務局を共同設置できる時代になってきているので、それが有効かどうかという研究や、情報収集を是非したいなと思う。行政改革という観点からも関心を持っている。

(委員)

資料にも施設の共同利用ということが挙がっている。上手くいけばいいと思うが、難しい。

(委員)

いろいろな課題解決のためにいろいろなアイデアを出していかないと想着いて、自分の地域だけではなく、幅広く都道府県枠を超えてやったほうがいいこともきっとあると思う。高校の関係も、三重県側で希望することもたちがいるのであれば、やはり行っていたきたいなという思いはある。

(委員)

高校進学エリアが拡大してから初めて、昨年度、1名が入学したので喜んでいる。また、今年の4月から通学定期券購入費の助成もしていただいている。そういったことで、学校の選択肢が広がっていると実感している。

(会長)

やはり、日頃からの交流が大事で、小学生のこどもたちに、三重県の高校のことを知ってもらうことができれば良い。

(委員)

逆もそうで、笠置町や南山城村のことも、やはり知ってほしい。文化的な繋がりも含めて、この圏域のことを感じて、大きくなってほしいと思う。

(委員)

山添分校は、認可の問題や財政の問題、定数の問題があり、将来的に厳しいと考えて決断した。何かこう、それこそ定住自立圏域で、こどもたちを補えるような、公立でなくても、何か私的なものでもできたらいいなという思いもあったが、なか

なかそこまでは行けなかった。今は通信教育とかいろんなものがあると思うのでその辺のところに委ねるしかない。

(委員)

先ほどの、技術職が足りないという話、これはどこの地域でもそうだと思う。原因の1つに、国の政策ももちろんあるが、伊賀市に工業高校建築科があったが、無くなったということがある。学科が無くなってから、募集しても応募が無いと聞いているので、建築や土木の学科を復活して、高校を卒業してまた技術職として戻ってきてもらうということを考えてもらえないかと思う。

(副会長)

建築は、数年前に伊賀白鳳高校に学科を設けて、募集もある状態。もう卒業生も出ていると思う。就職先は関知していないので分からないが。また、工学系大学の卒業生は、なかなか市役所の試験を受けてくれず、特に建築士2級、1級の確保は難しい。三重県でも地域によっては県から技術職を派遣している所もあると聞く。人も物もいろんな面で、広域で賄えるようになればいいなと思う。

(委員)

奈良は、技術職は県で採用してくれる。県で採用した人材をうまく均等に配置してもらった方がいいのだが、配属先を第3希望まで取る中で、山添村は入らない。こちらは希望しているが、そういう面で言うと、県が採用してくれているが、山添村まで配置されないという現状。

(副会長)

三重県の市長会、町長会の、知事との懇談でもそういう話が出ていて、県でやっぱり人材確保をしてほしいという意見は非常に強い。三重県は奈良県のように配置してくれるような仕組みにはなっていない。

(委員)

名張市と山添村と他市村で ENN(東奈良名張ツーリズム・マーケティング)と言って、インバウンド中心とした観光事業を推進している。資料で観光に関して記載があったので、今後検討していただきたい。

(3)定住自立圏推進要綱の一部改正について

— 事務局【資料4】定住自立圏推進要綱_新旧対照表 により説明 —

(副会長)

先ほども申し上げたが、人口減少が加速している中で、非常に重要な変更だと思っている。これは、第3期共生ビジョンを作っていく中で、変更していくという説明で受けとめてよろしいか。

<事務局>

はい。今日の推進協議会で、今後、第3期ビジョンを作っていく中で、方向性として、この一部改正も含め検討を進めるということに合意していただければ、しばらく研究してからまた、別の機会に報告させていただき進めていくという流れになる。事務局として、国の要綱も変更しているし、先ほど意見交換の中でも、公共施設の共同利用や人材確保の話が出ているので、これも含めて検討していくようご指示いただければ、そのように進めていく。今日はその確認をしていただきたい。

(副会長)

方向性として、一部改正も含め検討していただければと思う。

(他委員)

同じです。よろしくお願いします。

(5)定住自立圏ロゴマークについて

— 事務局【資料5】定住自立圏ロゴマーク(案) により説明 —

(副会長)

事前に案としても共有いただき、説明いただいたストーリーですごく良く作っていただいているロゴマークと思う。ただ、名張市も加入させていただいて、直ぐの段階なので、これから第3期共生ビジョンのあり方の議論を令和8年度にさせていただき、新しい共生ビジョンが令和9年度からとなる。できたらそういう議論を経た上で、最終的にロゴマークや、あるいは言葉の表現も含めて、考えてもらうといいのかなと思っている。名称が伊賀・山城南・東大和定住自立圏となっているが、結構長い。どこの地域の市民にとっても、分かりやすさというのも大事なのかなと思うし、名張市の住民感覚で伊賀地域という言葉に非常に大事にしたいと思っている。誤解なく申し上げれば、伊賀というと、やっぱりどうしても伊賀市というイメージが強くなるので、伊賀地域という広域的な意味合いというのも、これからどんどん醸成していきたいという思いもある。そのようなことも含めて、第3期共生ビジョンができていく中で、名称や、またロゴマークを、議論していったらどうかと思っている。一方で、今まで使っていただいているロゴマークは、名張市が入っていない状態でのイメージで作られているので、多分気を使っていたら早く変更しないとという思いで提案いただいたと思うが、現行のロゴマーク

にこだわりはないので、次の共生ビジョンの議論とあわせて、最終的な名称等、改めて決めていってもらったと思っている。

(会長)

この件について、ロゴマークも含めて、いかがでしょうか。また、引き続き、議論しますか。よろしいか。

(他委員)

はい。

(会長)

ロゴマークについては、引き続き議論を継続していきたいと思う。
それでは以上で事務局の進行を戻させていただく。

4. その他

<事務局>

議事以外の部分で、会議全体を通して、何かご質問、ご意見等がございましたら
お願いいたします。

— 意見等なし —

では、これで本日の会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。